

東ヨーロッパ

1980年代末、旧ソ連の情勢が激しく変化を見せた。東ヨーロッパ諸国も民主化を余蘄なくされた。そのなかで1992年ハンガリーで協力隊の活動が始まった。東ヨーロッパにおいて協力隊の歴史はまだ浅い。だが隊員たちがここで求められていることは、各自の専門分野の貢献に止まらず、日本の社会、歴史、習慣そして文化の紹介である。東ヨーロッパの人々の日本に対する興味は深い。今まで協力活動を展開した他の地域とは若干異なり、ここでは日本独自の文化が直接紹介される。日本語教育、剣道、柔道といった日本古来の武道などを指導する隊員が、多く派遣されている。日本と東ヨーロッパの交流のかけ橋として、隊員たちにもうひとつの役割が加わった。



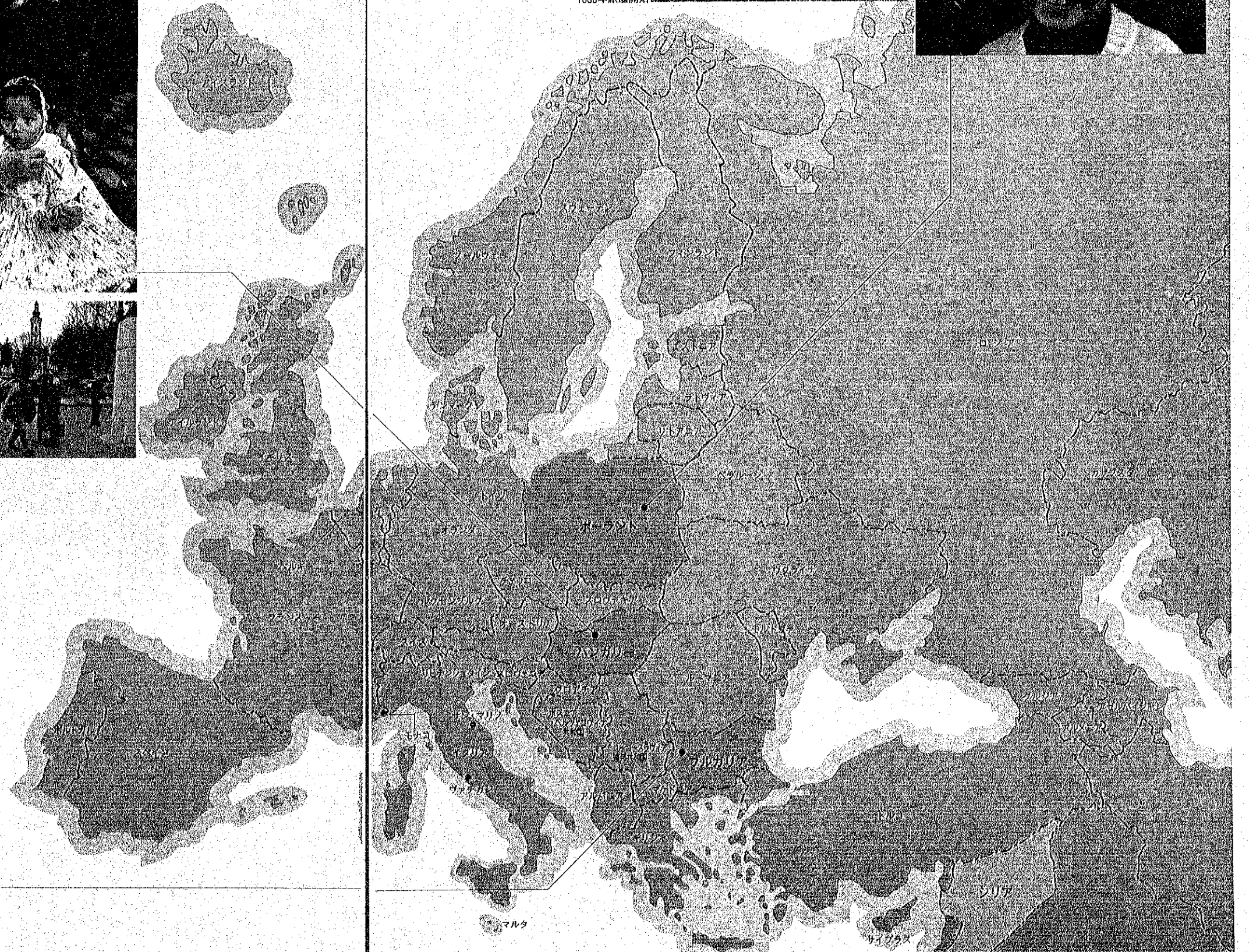
ハンガリー
1992年派遣開始



ブルガリア
1993年派遣開始



ポーランド
1993年派遣開始



ブルガリア

派遣の歴史は浅くても 日本文化への興味は深い いま、隊員は

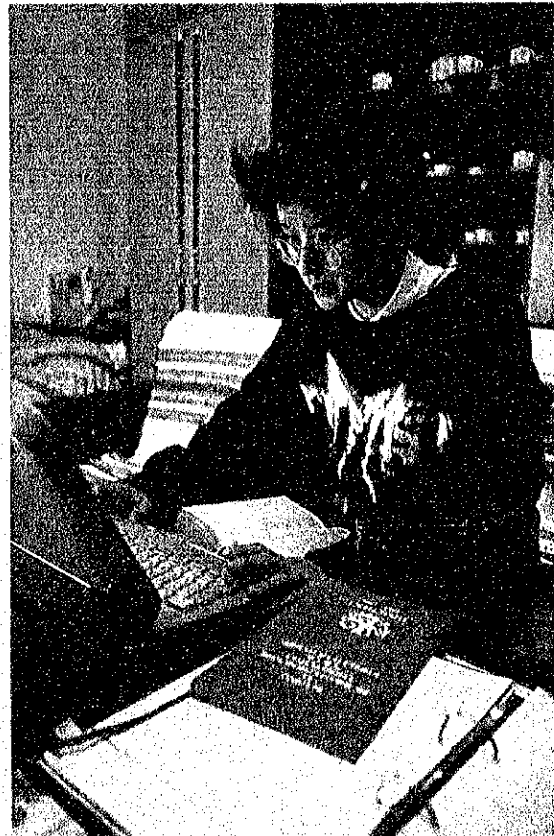
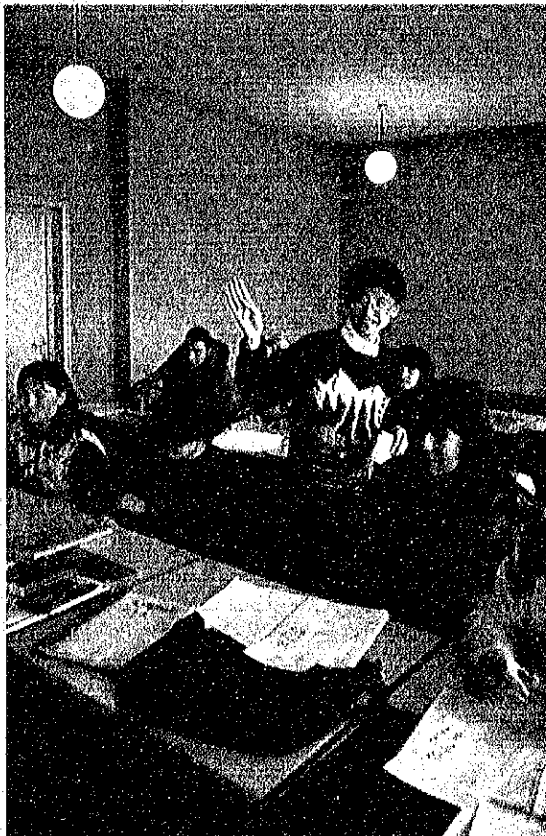
ヴェリコ・タルノボは人口6万人、大学の街である。語学教育がさかんなこの国で、とりわけ日本語への興味は大きい。大学で日本語の講座が開講したのは、1993年10月。派遣の歴史は浅くても、同じ言葉を口にするとき、隊員と学生たちの距離は急速に近づいた。学生たちは皆、真面目で理解も早く、1年でひらがながかなり上達した。

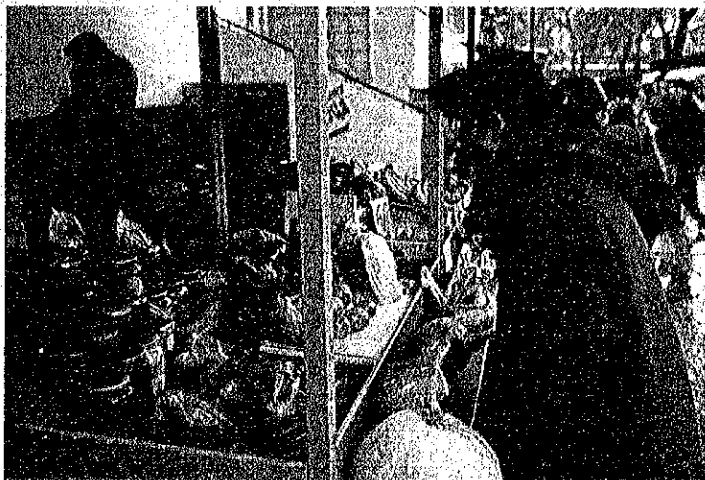
日本語教師として派遣された隊員たちは、日本の歴史や文化も教えなければならない。いま、ふたつの日本語教育のプロジェクトが進行中である。日本万国博覧会記念協会による日本語教育関係図書購入と、大学内にLL教室兼日本文化紹介のための図書館開設をするという拠点整備支援、国際交流基金の日欧文化交流強化事業である。

「ブルガリアは今、社会主義からの立て直しのための苦難の時期だ」と、皆口を揃える。物不足によるインフレが続く中で、隊員たちは買い物にも苦労する。大きな変革を迎えるこの国に、隊員たちと学生たちの話す日本語が今日もまたどこかで聞こえる。



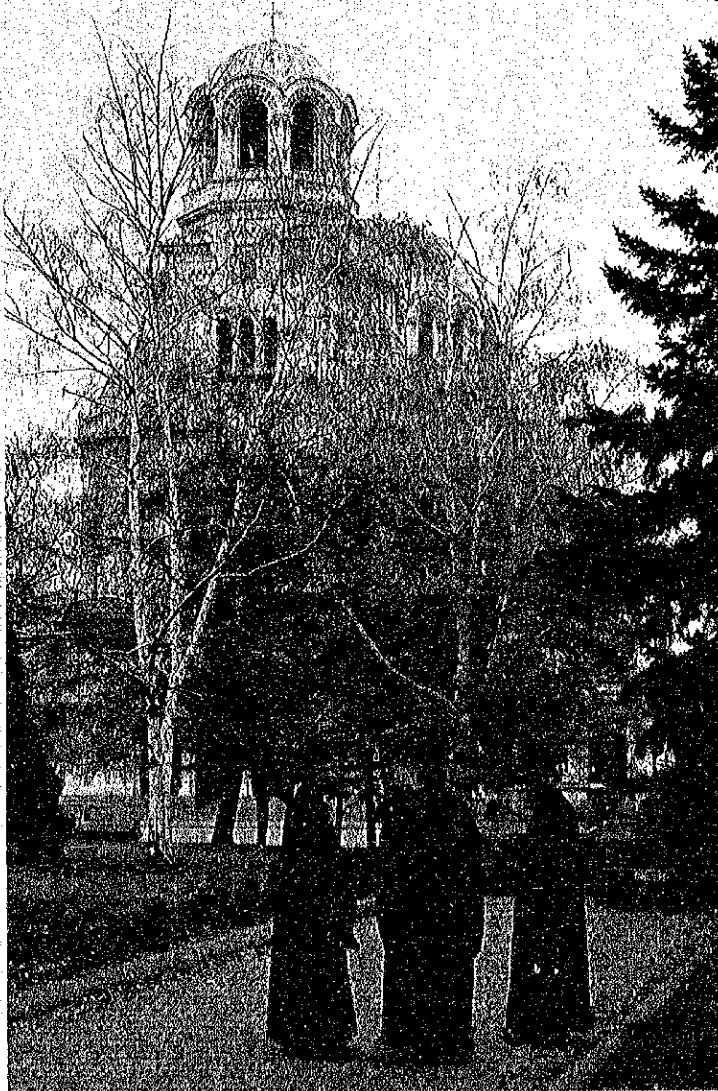
ヴェリコ・タルノボの街には昔の家並が保存されている





日本語のほかに
日本の歴史や文化まで
教えなければなりません

ヴェリコ・タルノボ大学で日本語を教えている川崎加奈子隊長。(前頁左下) 1年生と2年生のクラスで週14時間の授業を受け持っている。(前頁右下) 大学が休暇になる7月は前学期の整理、8月は外国人教師向けのブルガリア語研修、9月は新学期の準備と休む暇がない。夜は自宅で授業の案案作りに励む。(上) 休憩時間に校庭に出ると、彼女のまわりに生徒たちが集まり、日本語での雑談が続く。左端は同じ日本語教師の吉川貴子隊長。(左) マーケット街で食料を購入する



首都ソフィア市内に建つアレクサンドル・ネブスキー寺院

カメラマンノート ⑥

田沼武能

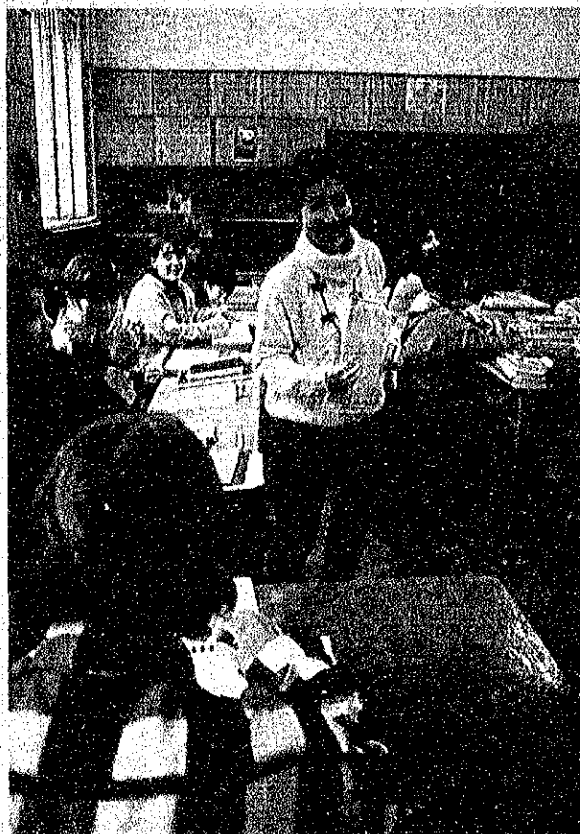
街を行く人々の表情は、随かに明るくなっていた。着るものも華やかさを増していた。先だって、ブルガリア、ハンガリーを訪問した時の第一印象である。それまでにも東ヨーロッパには何度か旅しているが、民主化されてからは、私としては初めてだった。それだけに、過去との対照が私の目には鮮烈であった。

一方で、民主主義というものを初めて経験した人々には、とまどいも少なくないようだった。以前は、国家から命令されたことを実行していればよかったのだが、今は自分で仕事を際さなければならぬ。小才のきく者は金儲けができ、新しい用に乗れない者は失業せざるをえない。自由と不自由は、生活の上ではセットでやってくる。

そうした国々で、日本の協力隊がはやくも活躍していた。変貌激しいそれぞれの国の生活になじみながら、精いっぱい努力している日本の若者たちには、頭の下がる思いであった。

東ヨーロッパへの派遣は途上国とちがって日が浅いので、今のところは日本語教師、剣道、柔道の隊員が多い。ブルガリアのある高等学校では、一週間に2時間、日本語の授業を組んでいた。覚えるのも早い。この子供たちが、隊員の協力も手伝って日本語をマスターするのが楽しみである。

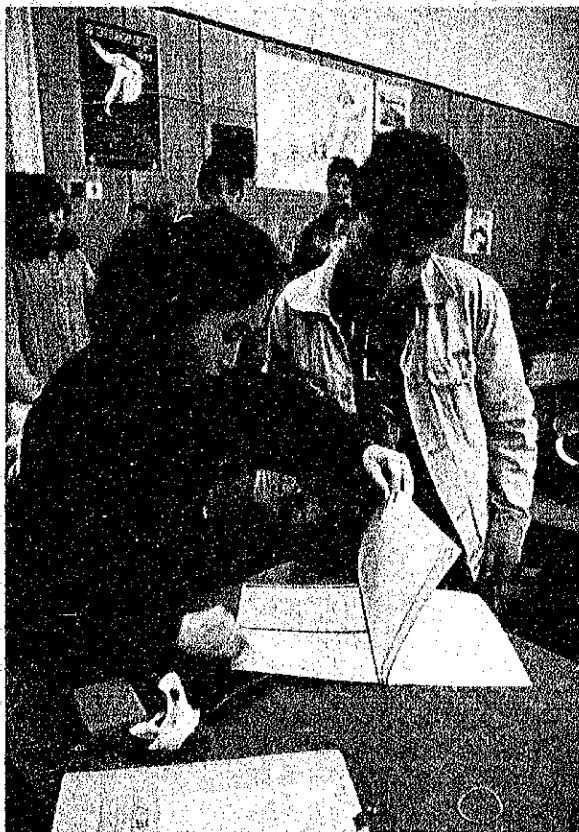
日本語を学ぶ人々は、それを通して日本に対する正確な知識を得る。同時に日本の青年たちは、東ヨーロッパという世界の文化と風土を、実体験として仕入れる。今後、この地域の必要な部門に、一層多くの隊員が派遣されていくだろう。本当の交流とは、こうした一歩一歩が積み上げていくものにちがいない。



ソフィア市第10高等学校で日本語を教える西岡あや隊員。生徒は月曜から金曜まで毎日5～6時間の授業があり、初年度に徹底的に教え込む授業内容で、1年でかなり上達する



ソフィア大学、東洋言語文化センターで、日本語授業中の酒井多恵子隊員。大学1年生の生徒たちは、かなり理解が早く、先生が少しでもなまげようものなら、どんどん質問げめにしてしまうほど勉強熱心



ソフィア市第18高等学校で日本語授業中の高橋ゆかり隊員。子供たちから誕生日にプレゼントの花が届くほどの人気者

ハンガリー

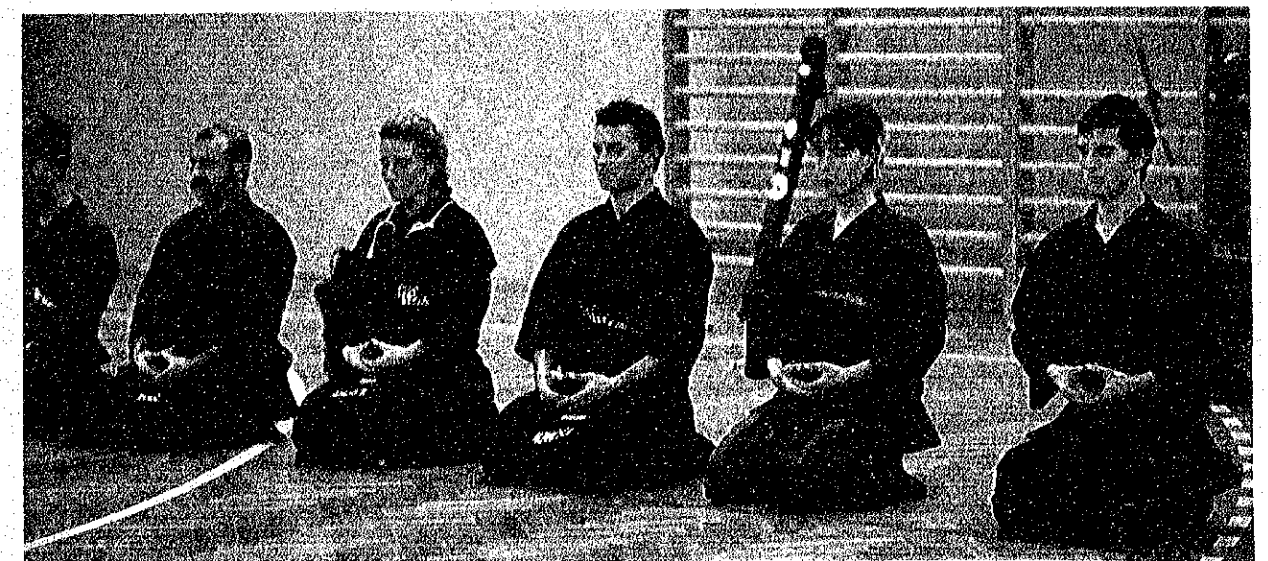
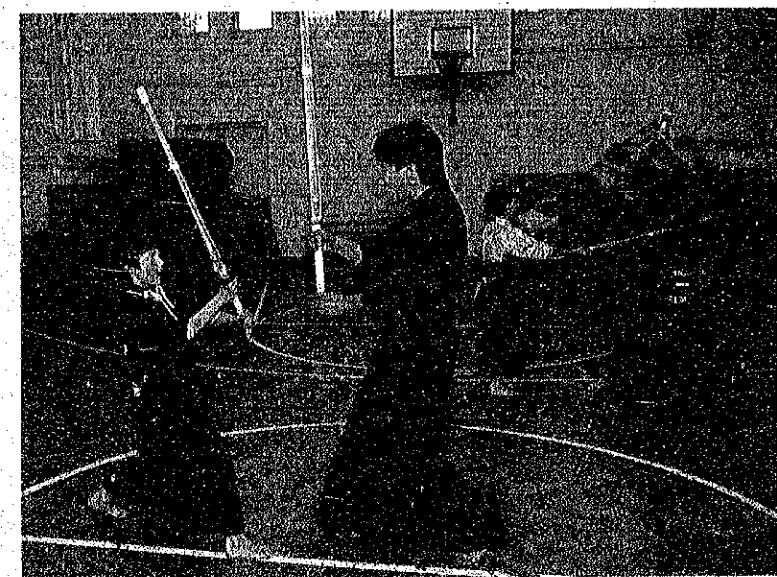
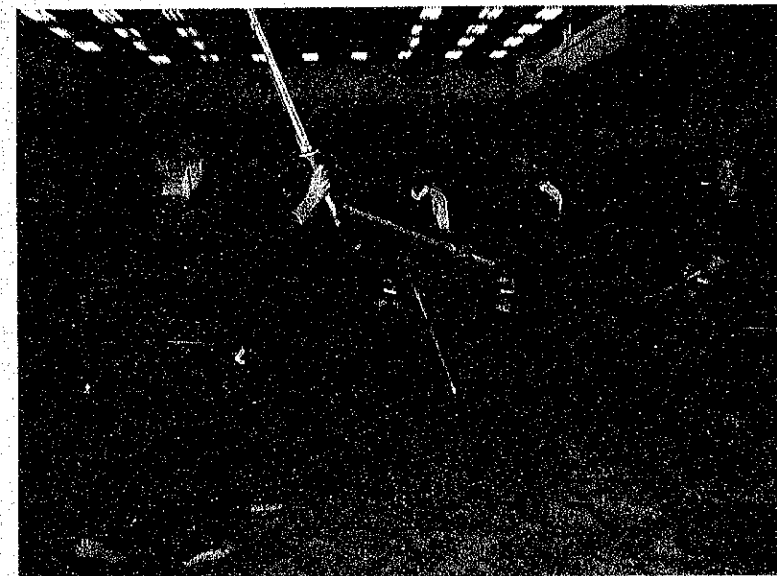
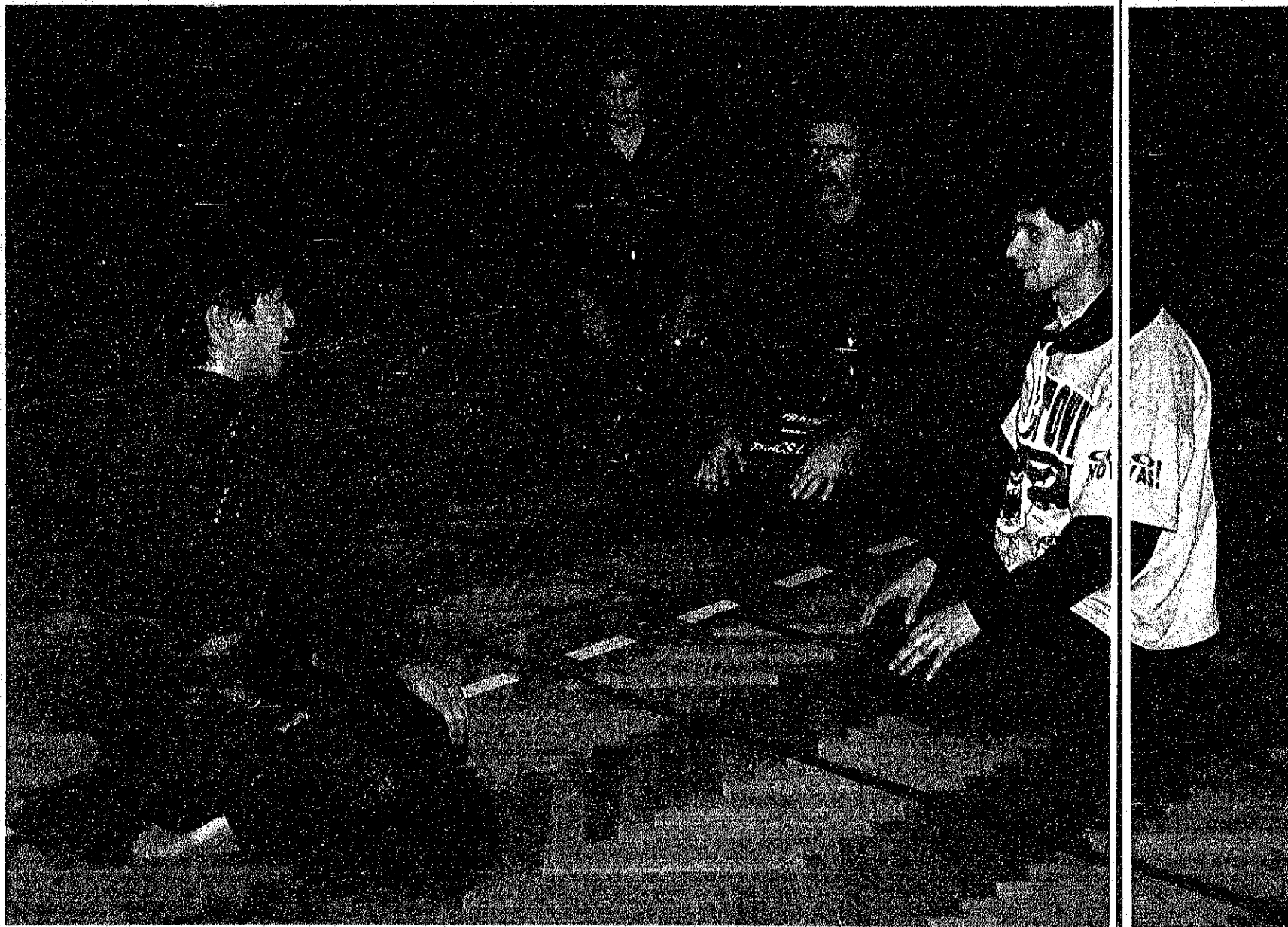
日本古来の武道がここ東欧の地で 隊員たちにより伝えられていた

ハンガリーの首都ブダペストの体育館。剣道着に身を包み、防具をつけた地元の男女数人が、横一列に正座して並び、顔を閉じて瞑想に入る。やがて静まった心のまま、連盟旗に一礼すると、次に師に向かって礼をする。ハンガリーにおける隊員たちの協力活動の歴史は浅い。しかし、この国において日本に対する関心は厚く、剣道を指導する隊員の活動の場は多い。

同じように柔道も人気の高いスポーツである。隊

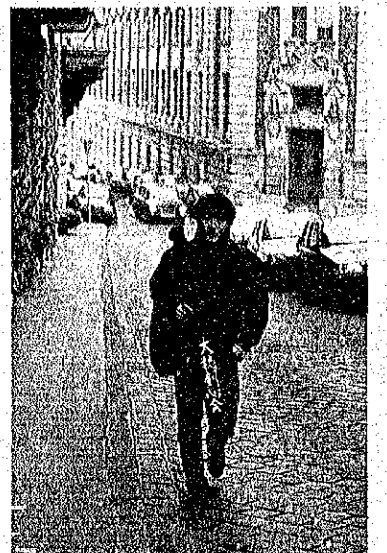
員が柔道の指導にあたっているブダペストのチャーク・ヴェレンツ小学校では、1994年の小学生ヨーロッパ大会で、8人の生徒が優勝を果たした。以来、その指導力は高く評価されている。今日も体育館の畳にみたてたマットの上で、子供たちの元気な掛け声が飛び交っている。

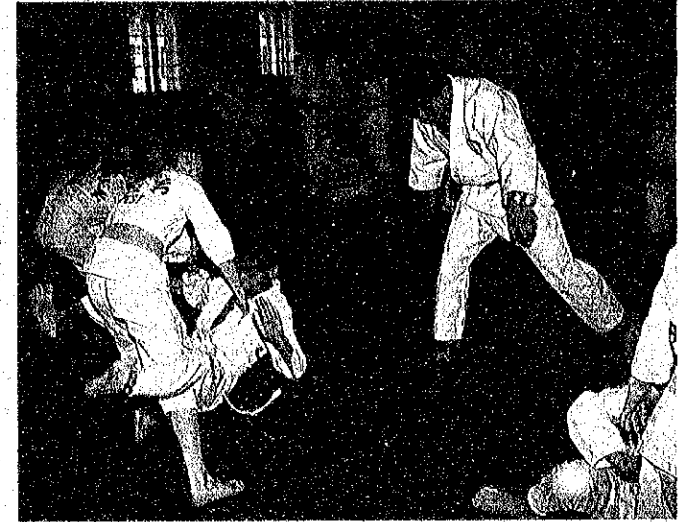
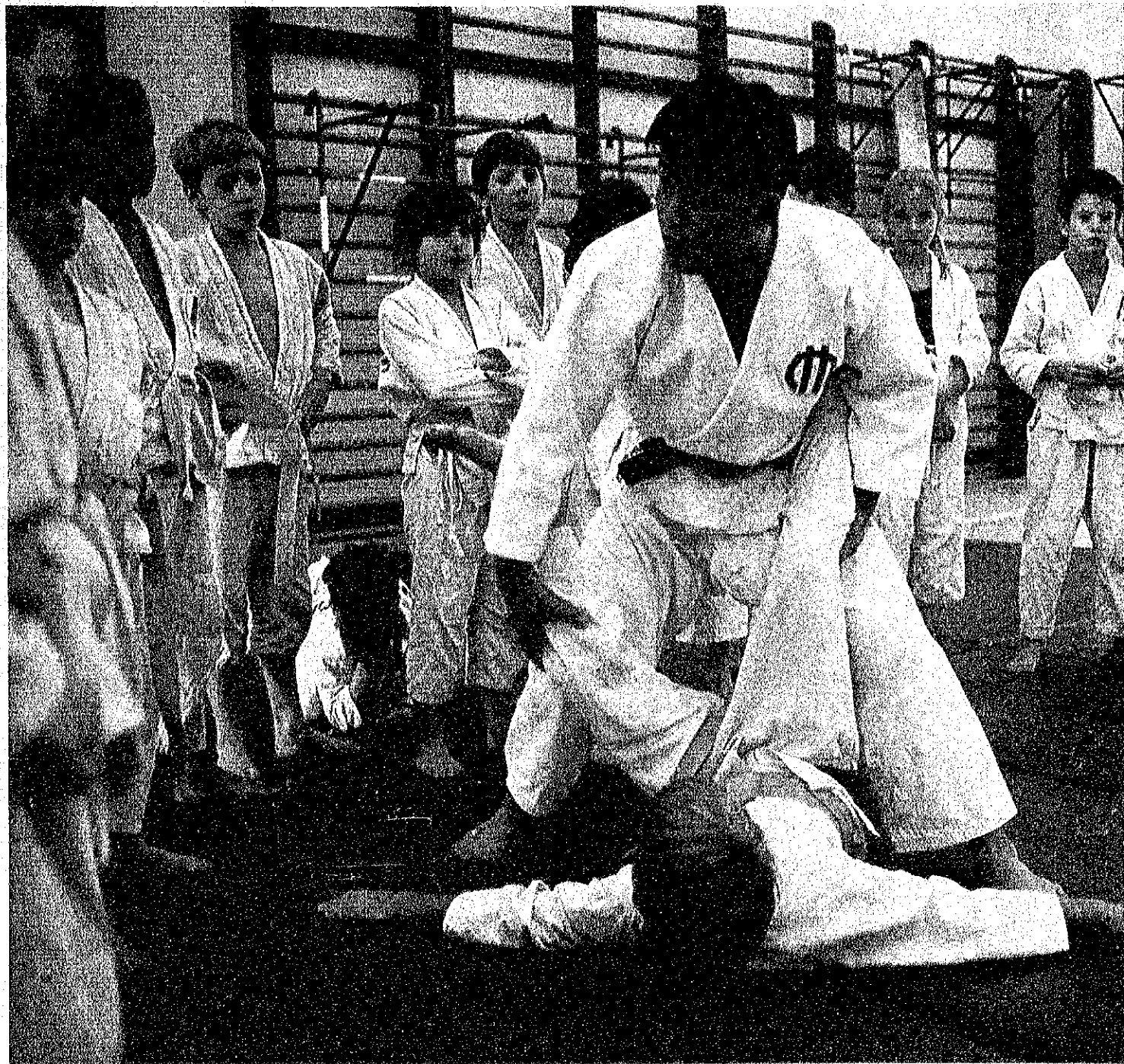
これらスポーツ教育での協力活動を通して、隊員たちは国際親善のさわやかな汗を流している。



稽古はまず
道場の床の雑巾がけから
始まった

ハンガリーの人々が剣道を学ぶのは、ただ単に強くなるためだけではなく、日本の文化、習慣や知識を得るためでもある。阿部哲史隊員にさまざまな質問を投げかけてくる生徒もいる。彼らは日本そのものに触れるために剣道を志したのである。隊員は日本とハンガリーの交流の可能性を剣道に探し出している。





柔道を好きになってもらうのが
大変な仕事です

柔道はオリンピックの金メダリストまで生んだハンガリーで、人気のあるスポーツである。この日、須藤正裕隊員は小学校3年生24人の指導にあっていた。大外刈りやともえ投げといった高度な技も習う反面、細い相手が気に入らないと怒る子や、痛いと言えずも現われ、さすがの武道家隊員も子供たちを相手に大奮闘だ



ブダペスト市ブダ地区のオールドタウンの街並

